



議題案
第14回生態学的関連種作業部会会合
2022年3月21-25日
オンライン

水色でハイライトした議題／小議題項目については、会合開会前に文書通信を通じて議論が開始される予定である。

1. 開会

1.1 議題の採択

1.2 文書リストの採択

1.3 ラポルツァーの任命

メンバーは、議題4-6にかかるラポルツァーを指名するよう要請されている。さらに、各文書の発表者に対しては、会合報告書に盛り込むことができるよう、自身が説明した文書（年次報告書は除く）にかかる簡潔なパラグラフを提供するよう要請される。

2. 年次報告所

メンバー及びCNMは、合意されている報告書テンプレートに従ってERSWGに対する年次報告書を作成し、これを提出する必要がある。ERSWGの作業計画に従い、事務局は、メンバーのデータを用いて試行的にテンプレートの表1を作成する予定である。参加者は会合前に報告書を読了しているものと見なし、本議題項目は、報告書に関する明確化を行うための質疑応答に当てる。

2.1 メンバー

2.2 ERSWG データ交換に関する事務局からの報告

事務局は、毎年のERSWG データ交換¹から得られたデータの概要を提供する。また本議題項目では、データ交換プロセス及び関連情報に関する変更についても検討する機会を提供する。

3. ERS 作業部会に関連する他の機関の会合報告及び／又は結果

CCSBTのERSWG会合における長期的なオブザーバーの地位を有する全ての機関

(http://www.ccsbt.org/site/observers_attendance.phpを参照)は、会合に参加し、及び会合に対する報告を行うよう招請されている。また、メンバー及びオブザーバーは、ERSWG会合に参加していない機関からの関連する会合報告書を提示する。ERSWGは、これらの報告書における関連勧告について検討する予定である。

4. ERSWG 13による作業計画の進捗状況のレビュー

ERSWG 13の作業計画は別紙Aのとおりである。ERSWGは、当該作業計画の進捗状況のレビューを行う。

¹ これらのデータを独自に解析したいメンバーは、これらのデータを取りまとめたエクセルシートをCCSBTウェブサイト「プライベートエリア」の「ERSWG データ交換」セクションから入手することができる。このデータを高度に集計した公開バージョンは、https://www.ccsbt.org/userfiles/file/data/ERSWG_Data.xlsxから入手可能である。

5. ERSに関する情報及び助言

この議題項目は、SBT 漁業によって生じる ERS へのリスク及び SBT の資源状況に対する ERS の効果に関する評価を進めるとともに、リスク削減のために必要と考えられるあらゆる措置に関する助言を行うための重要な議題項目である。メンバー、CNM 及びオブザーバーは、以下の議題項目に関して、会合前に文書を作成し、これを提出することが要請されている。

5.1 海鳥類

5.1.1 資源状況に関する情報

事務局は、従来の指示に従い、ACAP 及びバードライフ・インターナショナルに対し、SBT 漁業において捕獲される可能性がある海鳥類に関する最新情報（個体群状態の概要及び混獲緩和措置のレビューを含む）を提供するよう要請する予定である。

5.1.2 ERSの死亡数の推定及びこれに伴う不確実性

この議題項目では、海鳥の総死亡数を推定する手法について検討するとともに、メンバーが提出した死亡数の推定値についてレビューする機会を提供する。

5.1.3 生態学的リスク評価

ERSWG 13 作業計画は、ERSWG 14 に向けて高リスク海域の特定に関するアップデートとともに海鳥生態学的リスク評価をアップデートするため、メンバーからの協力を得てニュージーランドがこの作業を主導することとされている。ERSWG は、本作業の成果についてレビューする。

5.1.4 混獲緩和措置の評価及び助言

本議題は、現行の混獲緩和措置に関するレビューを行うとともに、必要と考えられるあらゆる変更についての助言を行うための ERSWG の常設議題項目である。

5.1.5 新たな四半期別 5 度区画データの活用

ERSWG 13 作業計画では、海鳥混獲に関する課題の解析について、修正された ERSWG データ交換で提供された新たな 5 度区画・四半期別データの活用方法について、ニュージーランドがこれを調査することとされている。

5.1.6 海鳥の種同定

海鳥の種同定にかかる実務又は方法論に関する改善についてアップデートを行う。

5.1.7 海鳥に関する複数年戦略

ERSWG 13 は、[CCSBT 海鳥に関する複数年戦略](#)における全体目標及び 5 つの個別目標を策定した。CCSBT 26 はこれらの目標を採択した。ERSWG 13 作業計画では、ERSWG 14 での検討に向けて、オーストラリアが全メンバーからの協力を得て、海鳥に関する複数年戦略における個別目標ごとの戦略的行動リスト案の改訂版を作成することとされている。ERSWG 14 は、戦略的行動案について検討する予定である。

5.2 さめ類

5.2.1 資源状態に関する情報

メンバーは、CCSBT に関連するさめ種の資源状態に関する情報を提供すべきである。

5.2.3 ERS死亡数の推定及びこれに伴う不確実性

この議題項目では、さめの総死亡数を推定する手法について検討するとともに、メンバーから提出された死亡数の推定値についてレビューする機会を提供する。

5.3 その他のERS

メンバー及びオブザーバーは、うみがめ類や海棲哺乳類といったERSに対するSBT漁業の影響に関する情報を提供することを奨励されている。

6. 普及啓発活動

本議題項目は、合意された混獲緩和措置が全面的に実施されるよう確保するための非常に重要な議題項目である。メンバーが実施した普及啓発活動については議題項目2の下でカバーされており、ここで議論する必要はない。この議題項目では、ERSに関する混獲緩和及び/又はデータ収集を強化するためにCCSBTが実施すべき新たな活動について議論することを意図している。ここでの議論には、CCSBTとバードライフ・インターナショナルが合同で策定してきた「CCSBT漁業における生態学的関連種・海鳥措置に関する教育及び実施の強化に関するプロジェクト提案」に関するアップデートが含まれる。

7. CCSBT パフォーマンス・レビュー勧告の検討

CCSBT パフォーマンス・レビュー報告書は2022年3月1日に提出される予定となっている。ERSWGは、同報告書におけるERS関連の勧告について検討し、ECに対し、それらの勧告に関するERSWGからのフィードバックを行う予定である。

8. 海鳥混獲に関するCCSBTの焦点の改善方法

EC 28は、ERS（特に海鳥）の混獲はより焦点を当てる必要がある重要な問題であり、毎年ERSWG会合を開催することでこのことに資すると考えられることに合意した。一部のメンバーは、関連する行政官及び科学者に対してさらなる負担を強いることとなるため、毎年会合を開催することについて合意する準備はできていないと述べた。また、バーチャル会合は物理的な会合を補完し、費用削減にも資する可能性があることが留意された。ECは、ERSWGに対し、ERSWG会合を毎年開催する必要性について検討するとともに、ECに対し、どのようにすればERS（特に海鳥の混獲）に対するCCSBTの焦点を改善することができるのかに関する助言を行うよう要請した。

9. 将来の作業計画

ERSWGは、これまでの議題項目において提起された課題と、必要と考えられる追加的な作業項目とを合わせて、最新の作業計画を策定する予定である。

10. その他の事項

11. ERS問題に関するCCSBT補助機関への検討の付託

この議題項目は、ERSWGがCCSBTの他の補助機関に対して特に付託すべきと考える事項に関するものである。

12. 拡大委員会に対する勧告及び助言

ERSWGは、これまでの議題項目で提起された中から、拡大委員会に対する勧告及び助言のリストを策定する予定である。

13. まとめ

13.1. 会合報告書の採択

13.2. 次回会合の時期に関する勧告

13.3. 閉会

ERSWG 13 作業計画

(各項目が ERSWG 14 のどの議題で検討されるのかを示すため、当初の作業計画に
対応欄を追加した。各項目についてより適切な議題項目がない限り、作業計画上の
活動項目は基本的に議題項目 4 で検討される。)

活動	時期	リソース	ERSWG14 での議題 項目案
1. 「アウトリーチ／教育を通じた ERS 措置の実施の強化及び措置の遵守状況の検証」に関する提案を改善する。	CC 14	バードライフ、事務局、メンバー	6
2. ERSWG 13 報告書が公開された時点で他のまぐろ類 RFMO にこれを提供する。	2019 年 11 月	事務局	4
3. 一元的なポータル（例えば WCPFC がホストしている混獲緩和情報システム）を通じて、オブザーバー及び電子モニタリングに関する文書、フォーマット及び手続き、及び海鳥混獲データコレクションを共有する。	2020 年 7 月	メンバー、事務局	4
4. 全ての死亡を含む（すなわち、投棄死亡と保持された商業漁獲を含む）形で修正した過去の EDE データを提供する。	2020 年 7 月	オーストラリア、韓国	4
5. 新たな EDE テンプレートに従って 2019 年の EDE データを提供する。またメンバーは、同様のフォーマットに従って修正した過去のデータを自主的に提供することが奨励されている。	2020 年 7 月	全メンバー	2.2
6. ACAP 海鳥種同定ガイドを主要言語（例えばインドネシア語、日本語、韓国語及び台湾語）に翻訳し、オブザーバーが混獲された海鳥類を種レベルまで同定することを支援するための海鳥混獲写真の参照ライブラリを設立する	2020 年 7 月	CCSBT 事務局及び ACAP 事務局、インドネシア、韓国、日本及び台湾	5.1.6
7. 海鳥類を種レベルまで同定するための追加支援として、死亡した混獲海鳥類の写真撮影及び DNA サンプルングに関する ACAP ガイドラインをカスタマイズする。死亡した海鳥類の写真撮影及び DNA 解析のための羽サンプル収集にかかる ACAP ガイドは、改善された手続き及び手法に関するテンプレートを提供している。	2020 年 12 月	CCSBT 事務局及び ACAP 事務局	5.1.6
8. 改正 ERSWG 年次報告書テンプレートの表 1 について、各メンバーごとの表の作成を試行する。	ERSWG 14	事務局、メンバー	2
9. 将来的に他のまぐろ類 RFMO に対して提供できるような、ERSWG 報告書の主要なポイントを総括するテンプレートを策定する。	ERSWG 14	議長、事務局	4

活動	時期	リソース	ERSWG14 での議題 項目案
10. 海鳥混獲に関する課題の解析について、修正された ERSWG データ交換で提供されることとなる新たな 5 度区画・四半期別データの活用方法について調査する。	ERSWG 14	ニュージーランド	5.1.5
11. 高リスク海域の特定に関するアップデートとともに海鳥生態学的リスク評価をアップデートする。	ERSWG 14	メンバーからの協力を得て、ニュージーランドが主導	5.1.3
12. 海鳥に関する複数年戦略における個別目標ごとの戦略的行動リスト案の改訂版を作成する。	ERSWG 14	全メンバーからの協力を得て、オーストラリアが担当	5.1.7